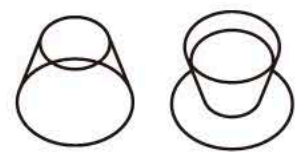


CAFE + MUSEUM SHOP

ミュージアムショップでは、展覧会図録や関連書籍、ポストカード、静岡市美術館のオリジナルグッズなどを販売しています。併設のカフェでは、香り高いコーヒーや静岡産の紅茶などもお楽しみいただけます。



オリジナルグッズ

- ・マグカップ ・マスキングテープ
- ・缶バッジ ・色鉛筆 ・茶アメ

※販売状況により在庫がない可能性があります

美術館からのお願い



展示作品にはお手を触れないようお願いします



展示室内での撮影はご遠慮ください



作品保護のため、展示室内では鉛筆以外の筆記用具の使用はご遠慮ください



展示室内では携帯電話はマナーモードにし、使用はご遠慮ください



カフェ以外での飲食はご遠慮ください



ペットをお連れの方、植物をお持ちの方は入館できません

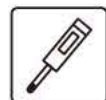
新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い



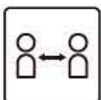
発熱、咳等の症状があるなど体調のすぐれない場合は、ご来館をご遠慮ください



マスクの着用をお願いします ※2歳未満のお子さんは不要



入館時の検温にご協力ください



他のお客様との一定の距離の確保をお願いします



手洗い・手指の消毒をお願いします



展示室内での会話はご遠慮ください

※混雑緩和のため、日時指定制(web予約)を導入しています

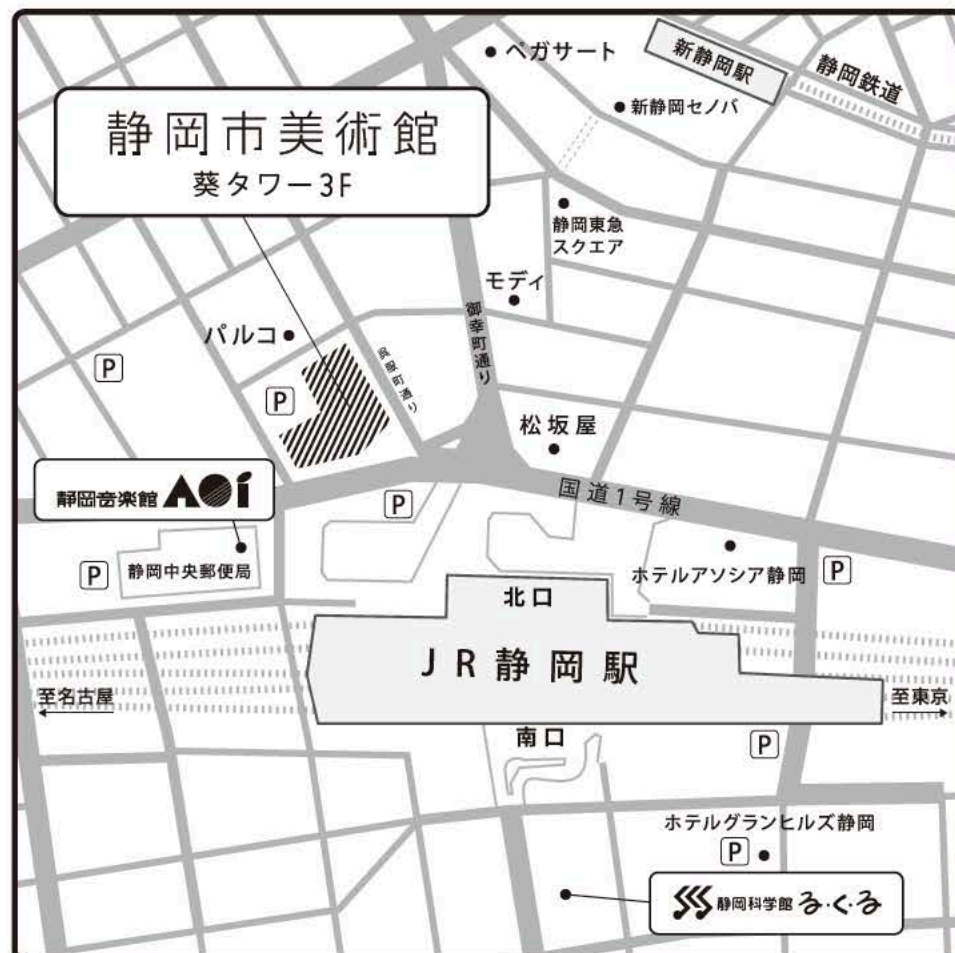
サービス



コインロッカー／傘立て
※ご利用の際、100円硬貨が必要です。使用後に返却されます。



車いす・ベビーカー貸出
※インフォメーションにて無料で貸し出しています。



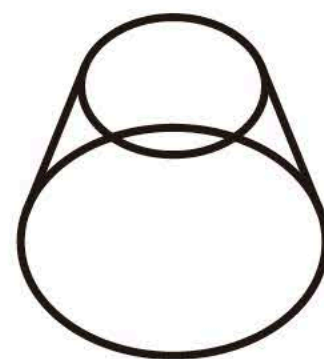
静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業
静岡駅前の静岡音楽館AOI、静岡科学館・く・る、静岡市美術館では、三館共同事業を開催しています。

- 《電車》 JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分
※お車でご越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス
(静岡エアポートライナー)で約1時間

開館時間 10:00-19:00 (展示室入場は閉館30分前まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)
年末年始
観覧料 展覧会により異なる。中学生以下無料。
交流ゾーン、ショップ利用は無料。
夜7時まで開館
◎展示替え期間中も交流ゾーンは開館しています。

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

スケジュール 2022-2023



静岡市美術館 SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

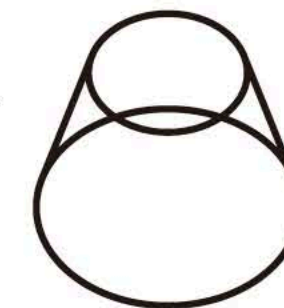


静岡市美術館は、JR静岡駅北口の「葵タワー」3階に、2010年開館しました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念としています。展覧会事業と交流事業を柱に、“街の中の広場”のような美術館を目指しています。



美術館ロゴマーク

ロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表わされています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。



東海道五十三次ひとめ図

2012年1月、東海道を“ひとめ”で見渡せる漆工芸作品がエントランスホールに誕生しました。静岡の伝統工芸を今に伝える、蒔絵師、塗師、指物師の皆さんによる2×3mの大きな作品です。



スイス プチ・パレ美術館展 花ひらくフランス絵画

2022年4月9日(土) - 6月19日(日)

スイスのジュネーブにあるプチ・パレ美術館は、実業家のオスカー・ゲーズ氏が収集した19世紀後半から20世紀前半のフランス絵画を所蔵しています。1998年にゲーズ氏が没して以降、休館状態に入り、国内外の展覧会に出品協力をしてきました。日本で約30年ぶりに同館の収蔵品をまとめて紹介する本展は、芸術の都・パリに光を当て、印象派から新印象派、ナビ派、フォーヴィスム、キュビズム、そしてエコール・ド・パリに至る前衛芸術の展開を辿ります。オーギュスト・ルノワール、モーリス・ドニ、藤田嗣治、モーリス・ユトリロらによる65点の名画をご堪能ください。

オーギュスト・ルノワール
《詩人アリス・ヴァリエール＝メルツバッハの肖像》1913年 スイス プチ・パレ美術館
ASSOCIATION DES AMIS DU
PETIT PALAIS, GENEVE



杉浦非水 時代をひらくデザイン

2022年11月19日(土) - 2023年1月29日(日)

※会期中展示替えがあります

すぎうら ひすい
杉浦非水(1876-1965)は日本のモダンデザインの先駆者です。明治41(1908)年に三越呉服店に嘱託として入社し同店の看板デザイナーとして活躍するほか、カルピスやヤマサ醤油などの広告やパッケージのデザイン、多くの本の装丁等を手がけました。明快で洗練された非水のデザインは今日もお色あせぬ魅力を放ちます。本展では、東京美術学校時代の写生や、ポスター、図案集といった代表的仕事に加え、彼の創作の原点となるスケッチや、写真、遺愛の品々などを紹介し、その全貌をたどります。



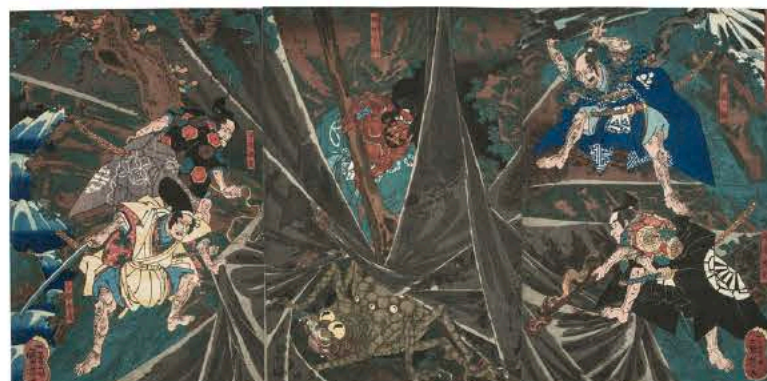
杉浦非水
《三越呉服店 春の新柄陳列会》
大正3(1914)年 愛媛県美術館

ボストン美術館所蔵

THE HEROES 刀剣×浮世絵 ー 武者たちの物語

2022年7月2日(土) - 8月28日(日)

アメリカで最も歴史のある美術館の一つであるボストン美術館は、5万点に上る良質な浮世絵版画を収蔵することでも知られています。本展は同館のコレクションから、菱川師宣、歌川国芳、歌川広重らが古代神話や軍記物語に登場する英雄の姿を描いた武者絵の優品118点を厳選し、主題や構図に共通性が認められる罫とともにご紹介します。また同時に、^{つば}伯耆安綱の太刀をはじめとする平安中期から江戸末期に生み出された20口の名刀も里帰りさせるとともに、国宝・重要文化財を含む国内所在の刀剣も交えて展覧し、武者絵の世界をお楽しみいただけます。



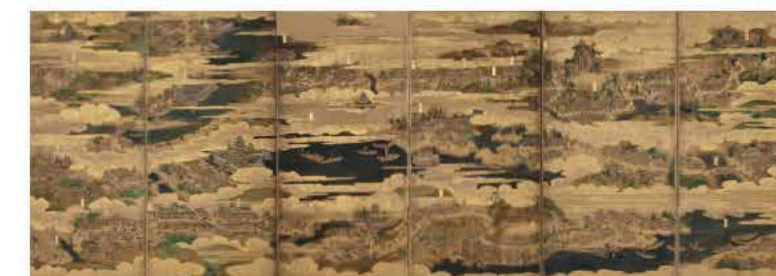
(上) 歌川国芳《源頼光の四天王土衛退治之図》 天保10-11(1839-40)年頃
(下)《太刀 銘 安綱》平安時代(11世紀)
William Sturgis Bigelow Collection Photographs ©Museum of Fine Arts, Boston

東海道の美 駿河への旅

2023年2月11日(土・祝) - 3月26日(日)

慶長6(1601)年、徳川家康が東海道の宿駅を設置し、街道が整備されると、東海道図屏風や歌川広重の保永堂版東海道五拾三次など「東海道」を主題にした絵画が広く普及しました。一方、東海道は詩書画を好む駿河の文化人たちと上方や江戸の絵師たちとの交友も可能にし、京都の円山応挙一門や江戸の司馬江漢をはじめとする新しい傾向の絵画は、駿河の人々に歓迎されました。本展では、描かれた東海道と街道をめぐる絵師たちの往来に注目し、東海道が育んだ駿河の美術や文化をご紹介します。

※本展は2020年開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により本会期に延期いたしました。



《東海道図屏風(マッケンジー本)》江戸時代 静岡市

出版120周年

ピーターラビット™展

2022年9月15日(木) - 11月6日(日)

今なお世界中で愛されるいたずらなうさぎ、ピーターラビット™。1902年刊行の絵本は、2022年に出版120周年のメモリアルイヤーを迎えます。盛大なバースデーパーティをテーマとした本展では、ピーターラビット誕生前夜から今日に至るまでの歩みを、貴重な原画や書籍、関連アイテムなど約170点で振り返ります。なかでも創作の原点となった作者のビアトリクス・ポター™(1866-1943)の絵手紙や、『ピーターラビットのおはなし』の彩色原画全点が一堂に展示されるのは日本初の機会です。やんちゃで魅力的なピーターラビットの世界をお楽しみください。

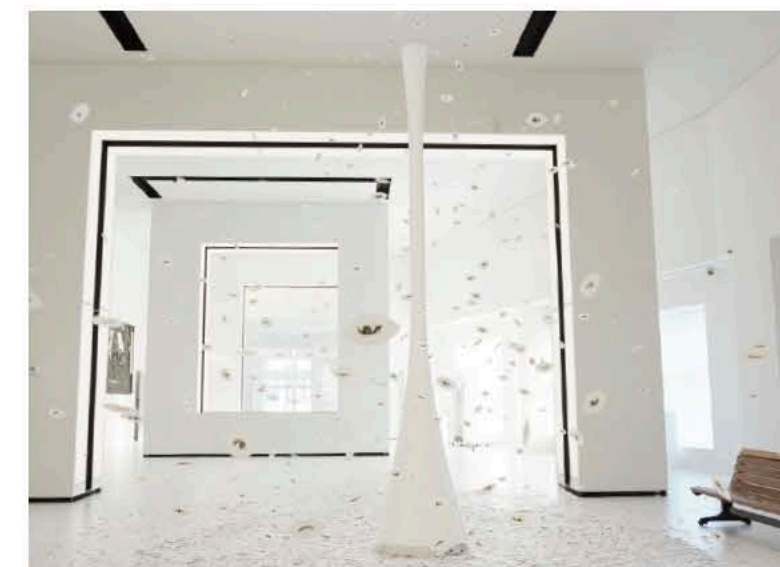
In association with Frederick Warne & Co:
PETER RABBIT™ & BEATRIX POTTER™ © Frederick Warne & Co., 2021.
Frederick Warne & Co. is the owner of all rights, copyrights and trademarks in the Beatrix Potter character names and illustrations.
Licensed by Frederick Warne & Co. Ltd. All Rights Reserved.



《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》1902年 ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社 ©Frederick Warne & Co.Ltd, 2017

交流事業

ミュージアムショップ&カフェのあるエントランスホールや、多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と呼んでいます。ここでは様々なアートシーンの紹介や講演会、シンポジウム、コンサート、映画上映やワークショップなどを実施しています。また、展覧会ごとに学校等の団体を対象にした鑑賞教室「ミュージアム教室」も実施しています。詳しくはお問い合わせください。



鈴木康広 まばたきの葉 | 未来の待ち合わせ場所 photo/ Katsuhiko Ichikawa



(上) ワークショップ室 「オープンアトリエ」のようす
(下) 多目的室 講演会のようす